

2014年 1月14日

苫小牧市長
岩倉博文様

北海道平和運動フォーラム
代表 江本秀春
代表 中村誠吾
平和運動フォーラム日胆地域協議会
代表 林英樹

米海軍第7艦隊イージス艦「カーティス・ウィルバー」および「ジョン・S・マッケイン」苫小牧港入港に反対する申し入れ

<要請趣旨>

貴職におかれましては、日頃から市民の安全・安心な暮らしを守るとともに、ゆたかな生活の実現のためご奮闘されていることに対して心より敬意を表します。

さて、米海軍第7艦隊イージス艦「カーティス・ウィルバー」および「ジョン・S・マッケイン」が2月4日から10日まで、苫小牧港に入港することが明らかになりました。

苫小牧港へは、2011年にミサイル駆逐艦「グリッド・レイ」、2012年に揚陸指揮艦「ブルーリッジ」および掃海艇「パトリオット」の米艦船が入港しました。そして、昨年は米軍の都合で入港中止となりましたが、高速輸送艦「ウエストパックエクスプレス」が入港しようとしていました。

このような「親善及び友好」を口実とした度重なる米艦船の入港は、苫小牧港の軍事的利用を常態化させるものであり、「非核平和都市宣言」を制定した貴職をはじめ苫小牧市民の努力を踏みにじるものです。

また、日米間の「核密約」が明らかになり、これによれば核兵器を積載した米艦船の日本国内の港湾への寄港を「事前協議」の対象外としてきたこととなります。これは、これまで政府・外務省が「事前協議がないので核持込みはない」などと繰り返し回答したことが、自治体及び国民を愚弄する虚偽であったこととなります。その後の「核搭載能力を有しない以上、核兵器を搭載していないことに疑いはない」との回答も、何ら核不搭載の担保となりえないものです。

したがって、貴職におかれましては、自治体の長として毅然とした判断をくだされますよう、下記の事項について誠意をもって対応されるよう要請します。

<要請事項>

1. 市民の平和と安全を守る観点から、米海軍第7艦隊イージス艦「カーティス・ウィルバー」および「ジョン・S・マッケイン」の入港に反対すること。
2. 「日米地位協定第5条」は、通告だけで自由に入港できるとの定めではなく、入港を許可するか否かの判断はあくまでも港湾管理権を有する苫小牧市長の判断・権限であることを、政府・外務省及び米国に対して明らかにすること。
3. 政府・外務省が、「日米地位協定」等を口実に入港許可を求めてきた場合、政府・外務省及び米国に対して「カーティス・ウィルバー」「ジョンS・マッケイン」の核兵器不搭載の確認を求めること。その際、「核密約」問題を踏まえ、「事前協議がないので核持込みはない」「核搭載能力を有しない以上、核兵器を搭載していないことに疑いはない」等の回答は認められるものではなく、文書による核兵器不搭載の証明を求めること。

以上